

## 山の百の花

同人会員 神森 揮子

## 【75】コマクサ

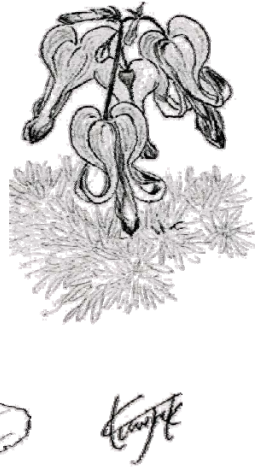
二年前の七月初旬、北海道トムラウシへの縦走を計画した。コマクサを食草とする大雪山にしかないウスバキチョウを見るためである。現 26 期研究生の木村さんのため。の願いで銀泉台から入ることにした。

重いザックにあえぎながらコマクサ平に着くとその名の通りコマクサが一面にさいている。あつ、ウスバキチョウだ！急いで写真を撮ろうとするが中々止まってくれない。蝶を追いかけながら登山道を行ったりきたり、もうヒグマへの恐怖など、どこへやらである。やつとのことて数枚撮れた。

それにしても贅沢な蝶である。この人気の高山植物が幼虫の食草とは。コマクサは種から花が咲くまでに数年、ウスバキチョウも成虫になるまで三年かかるという。ともに氷河期の忘れ形見であろう。

コマクサは高山植物の女王とか言われているが、なんともユーモラスな花の形である。名前の由来の様に四枚の花弁のうち外側の二枚は反り返り、内側の二枚は中央に

細長く突き出ている、確かに馬の顔にみえる。このコマクサは色も濃く、八年前に登った後立山連峰にある蓮華岳のコマクサよりもあでやかであった。ウスバキチョウとコマクサの写真はトムラウシの思い出と共にいまパソコン背景を飾っている。



## 【76】ホテイラン

この花の名前を初めて耳にしたのは、四阿屋山の麓にあるセツブンソウの自生地向かっていたある年の三月のことである。

武蔵五日市の駅で同じ目的の方と相乗りをお願いしたタクシーの中であった。差し出された葉書の写真を見て、こんな妖精のような花があるのかと目を疑った。



矢継ぎ早に場所と時期とを質問するが、中々口ごもつて的を射ない。初対面の人には簡単には教えられないという様子である。それでもなんとか、自分が盗掘をしたりやたらと場所などを口にしたたりする人間でないことを相手に伝えることができたのか、大体の場所、時期を教えて頂いた。

待ちかねていた時期がきた。情報を頼りに現地へと急ぐ。咲いていて欲しいと願いつつ探し回ると、苔むした登山道脇にひっそりと佇んでいた。歓喜の声をあげながら夢中でシャッターを押すが小さな花なのでデジカメでは思うように写せない。

3 枚のピンクの花弁は羽、細長く先で 2 つに分かれた白い花弁は足と、まるで妖精がそこに降り立ったかのような錯覚に陥る。花茎の右下にある一枚の波うった葉も中々趣がある。

撮影を終え立ち寄った小屋の方から、残念な事だが、心ないランマニアによる盗掘も多く、最近はずいぶん数も減ったと聞いた。いつまでも盗掘されずにひっそりと咲いていて欲しいものだと思いつつ帰路に着いた。